

2017年度 共同生活援助事業報告書

山本靖雄

2017年度も「秋篠ハウス5名（男性）」・「若葉ハウス5名（女性）」・「富雄ハウス5名（女性）」の3事業所で実施した。富雄ハウスは1名6月末で退所したが、10月に新たに1名の利用が開始、また、若葉ハウスにも10月より新規で1名の利用が開始した。

各ホームの特徴として、秋篠ハウスは各自自室での自由時間（テレビ鑑賞・ゲーム・本など）を大切にしている傾向がある。自分の時間とみんな揃って共有スペースで過ごす時間をうまく使い分けている。体重増加と運動不足解消の為、グループホームへの行き帰りはなるべく歩いて行く事を心掛け、現在は定着してきた。若葉ハウス・富雄ハウスはグループホームに戻ると仲間同士で、共有スペースで過ごす時間を楽しむことが多い。テレビ鑑賞、カラオケ、食後のティータイム（女子会）を楽しんでいる。また、家事に関しても積極的に行うメンバーが多く洗濯関係、食器洗い、掃除等の家事も定着してきている。また、新たに入居したメンバーもスムーズに移行することができ現在も落ち着いて生活されている。

全グループホームに共通して言える事は家とグループホームを上手に使い分けている事である。保護者の中には「家では〇〇しないのに、〇〇食べないのにグループホームでは食べるんですね、」と驚かれることもある。集団での生活ではあるが、それぞれに「自分の家・部屋」という意識が出てきているのだと思う。また、利用者の中から「楽しい」「泊まりたい」と言う声が多く、スタッフとの関係性も良い。そういったところがスタッフのモチベーションにもつながっている。

利用者の年齢の上昇に伴い、年々体力面、体調面、精神面に不安が出てきていることもある。具体的には、病気、入浴介助、通院、服薬の管理、睡眠の不安定、精神的不安定などである。その都度、利用者の訴えを聞き、対応している。また、家族との連絡、連携も大切にしている。スタッフに関して若葉ハウス・富雄ハウスの人材確保は徐々に出来てきた。秋篠ハウスは男性スタッフの確保がなかなかできない現状があるが、女性のスタッフの支援でまかなえている。

支援者が増えたことにより、情報の共有が問題となっていたがスタッフミーティングや相談、書面での連絡、説明などを行い、スタッフ間の連携も密にしている。情報の交換や支援の疑問点、スタッフの今抱えている問題などを聞き風通しの良い環境を作れるように努めた。また、他施設との交流として年1度の奈良市グループホーム交流会にも参加し、運動会・お花見を通して交流を深めた。スタッフは2ヶ月に1度開催される奈良市グループホーム会議に参加し情報の共有を行っている。

グループホームは生活の基盤であり、くつろげる場所、心が休まる場所として定着してきた。

- * 3月末に若葉ハウスのスプリンクラー工事が完了した。消防検査も無事終了している。
- 平均区分5以上の利用者と非難に対して個別介助の必要な利用者の多い施設から優先して設置することとなった。より安心安全の棲家となった。